

## 日本語・学習支援教室 1月25日現在の活動状況についてのアンケート(結果)

公益財団法人横浜市国際交流協会 YOKE

実施目的:コロナ禍における横浜の日本語・学習支援教室の現状を把握するとともに、アンケートの結果から得た、課題や工夫を共有し教室の支援に役立てる。

実施期間:2021年1月25日～2月3日

対象:139教室

日本語・学習支援教室データベース(横浜)掲載団体皆様(地域日本語教室および学習支援教室)  
<https://yokeweb.jp/> (2021年3月8日 URL変更 ページをリニューアルしました。)

回収数:75教室(同じ団体が複数の教室を開催している場合があります) 回収率54%

(注)回答内容は、一部抜粋または、趣旨を変えない範囲で一部表現を変更したところがあります

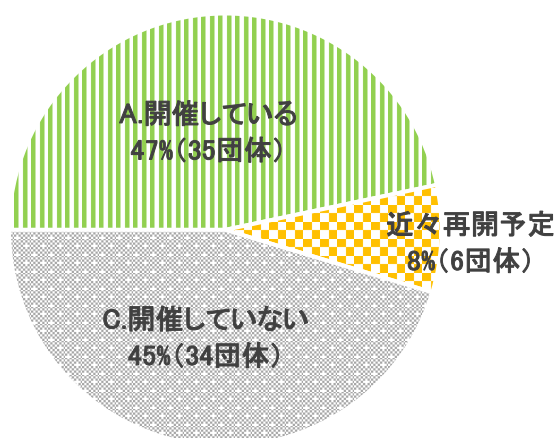
## 【質問1】開催状況

□2021年1月25日現在の教室活動状況\*について教えてください

教室の開催状況*	全体		主に大人対象の教室		主に子ども対象の教室	
	団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合
A. 開催している*	35	47%	28	47%	7	44%
B. 近々再開予定	6	8%	5	8%	1	6%
C. 開催していない	34	45%	26	44%	8	50%
合計	75		59		16	

\*:一部でも開催している教室は、「A開催している」に含めて集計

## 教室の開催状況(1月25日時点)



n=75

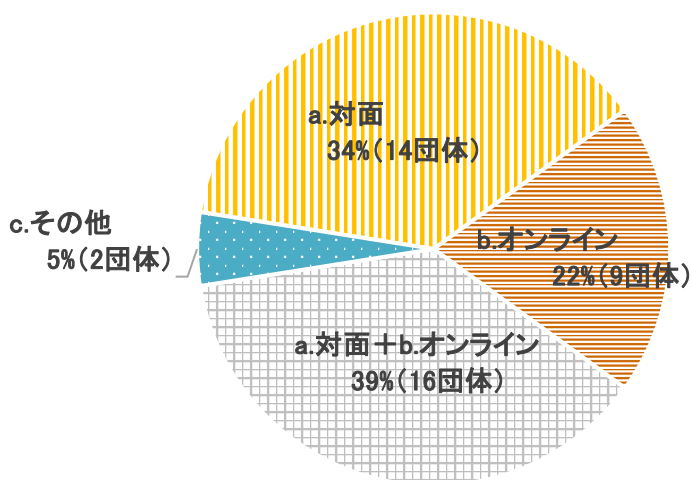
**【質問2】 開催形態の工夫**

□質問1で「1 開催している」「2 近々開催予定」を選択した団体の方は、どのような形で開催されますか

**(1) 形態**

教室の開催形態	団体		主に大人対象の教室		主に子ども対象の教室	
	団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合
a.対面	14	34%	12	36%	2	25%
b.オンライン	9	22%	9	27%	0	0%
a.対面+b.オンライン	16	39%	11	33%	5	63%
c.その他※	2	5%	1	3%	1	13%
合計	41		33		8	

**教室の開催形態(1月25日時点)**



n=41

※その他の事例

- 1: ロシア語を母国語にする方を対象にして、個人レッスンを原則としているが、現在受講生はいない
- 2: 対面は一時中止として、オンラインやメール、電話、手紙等いくつかの方法で個別の支援をしている

## (2) 対面での工夫

□質問 2 について詳しく教えてください。(方法・内容及びメリット・デメリット等)

### <会場について>

- ・広い会場で開催している
- ・人数制限を設けている(1 部屋 10 人まで、通常定員の半分以下など)
- ・別室を利用している
- ・机、椅子のレイアウトを変える(端に座る、1.5m 以上の間隔を取るようになるなど)
- ・使用前後の机等の消毒をしている

### <物品等の導入>

- ・手指消毒/マスク・フェイスシールドの着用
- ・パーテーションを設置している
- ・換気を実施している(サーキュレータなど)

### <開催形態の工夫>

- ・小学生と中学生の教室を隔週開催にして、少人数にしている
- ・事前に参加方法、人数を確認して調整している

## (3) オンライン活動での工夫(方法、内容・メリットデメリット等)

### 【地域日本語教室】

#### <利用システムと開催形態>

- ・Zoom/LINE/Skype/Whereby を利用して、1 対 1~2、レベル別グループ(1 グループ 1~4 面)で実施
- ・LINE による 3 つのオンライン教室、メール交換による 1 つの作文教室を実施
- ・事前にメールで教材を送って、電話だけで行うクラスがある
- ・希望者にはオンラインでの学習支援をしている
- ・ボランティアが交代して実施
- ・毎週レベルによって時間を分けて実施
- ・全グループがオンラインレッスン
- ・オンラインやメール、電話、手紙などで個別に支援
- ・授業日誌を書いてオンラインで見られるようにし、引継ぎや対面レッスン再開時の便宜を図っている

#### <教材の工夫>

- ・学習者とボランティアで、テキストを決めて進める
- ・学習者にオンライン教材(ネット上のリソース)を紹介
- ・教材は写真を撮ってラインで送信したり、WEB 教材を使ったりする場合がある
- ・学習者は自身でボランティア指定の教科書を用意

#### <オンライン開催のメリット>

- ・感染対策がとれるなど、感染の危険性の無さが最大のメリット
- ・静かな環境で勉強でき、通うためのコスト(時間・お金)を節約できる
- ・画面共有を使えば、資料を拡大コピーしなくてもよい
- ・初心者に単語を知ってもらう際に実物を教室まで持参しなくてもよい

#### <オンライン開催のデメリット>

- ・学習者の Wi-fi 環境により、接続が上手くいかないことがある
- ・オンラインの環境が整っていない/慣れていないボランティアが多く、ボランティアの確保が難しい
- ・初めはオンライン環境に不慣れな方が多く、戸惑いがあったが、現在は特に問題なくレッスンできている

- ・支援者同士、他グループとの交流機会の情報交換の機会がなくなる
- ・ペアのほとんどが LINE を使用しているが、スマホなので教材の共有方法に苦心している
- ・学習者の人数が多いと、相手の目を見て話すことができないので、支援者側も発音に気を付けて発話しないと通じないことが多々ある

#### 【学習支援教室】

- ・教室にあぶれた学習者または希望の学習者はオンラインで実施しているが、ごく少数
- ・オンライン学習が可能な中学生は、個人でオンライン学習をしている
- ・低学年向けに Zoom で紙芝居の読み聞かせの会を開催した。その際、親からの要望を聞き取って、次の課題とした
- ・Zoom で定時に場を設定し、参加したい人は学習できるような体制を考えていて、高学年向けに Zoom 座談会を企画中

#### 【質問 3】 開催していない状況

□「3 開催していない」を選択した団体の方は、理由や代わりにされている工夫などありましたら、ご記入ください。

#### 【日本語教室】

- ・複数のボランティアがオンラインで個別に学習者と連絡を取っている
- ・緊急事態宣言に合わせて休講とし、理由と今後の日程については個別に電話した。また、お知らせを各家庭に郵送した
- ・コロナ感染状況がステージ 3 を超えたため休会にしたが、3 月は状況をみて開催するかもしれない
- ・緊急事態宣言中なので 1 組だけが Zoom でオンライン授業を実施。自習して分からないところがあると電話してくる学習者に教えているのが 2~3 組ある
- ・利用していた施設がコロナで休館しているため、休会している。施設が使えるようになったら対面で実施
- ・緊急事態宣言が長引いた場合はオンラインの学習も検討したいが、定例会が開かれていないため進んでいない
- ・会員同士の定例ミーティングをオンラインで実施し、オンラインワーキンググループで Zoom 勉強会を実施していて、やがてはオンラインでの授業を開催しようと準備中

#### 【学習支援教室】

- ・学習担当スタッフが学習者と保護者にメール等にて個別に連絡を取り合い、質問事項に回答、資料の授受を行っている
- ・宣言が解除されたら再開する予定だが、中学生に限り、どうしても学習支援をして欲しい子は個別に連絡を取って対応する
- ・LINE を使って高校受験の面接の練習をしている
- ・小学校内教室であるため、放課後活動の休止のため休んでいる

## 【質問 4】その他

□共有したい情報や知りたいことなど(一部の意見を抜粋して反映しています)

### 【地域日本語教室】

#### <共有したい情報>

- ・以前、家で学習できるというサイトを教えていただいたときはとても重宝した
- ・楽しい教材、使いやすい問題集、サポーターさんへの研修案等、良かった講師の先生の情報
- ・YOKE の Zoom 講習会に参加したメンバーがきっかけで、会全体で Zoom に取り組んでいる

#### <知りたいこと>

- ・インターネットを使って、役に立つサイトなどを紹介して欲しい
- ・オンライン授業の仕方について知りたい
- ・Zoom で使える教材を教えて欲しい
- ・オンラインと対面を併用する際の留意点や併用している教室の様子をできるだけ多く見たい
- ・LINE を使ったサポート方法について教えて欲しい

#### <教室開催における課題>

- ・オンラインで教えることもできるが、生徒の家庭に機器があるか分からない
- ・ボランティアスタッフを募集している
- ・オンラインでの授業のやり方(大人、子ども)や、オンライン合った教材等の紹介をして欲しい
- ・広報に課題を感じていて、他団体がどのように広報しているか教えて欲しい
- ・オンラインで実施するにあたって、ボランティアの研修も必要になってきていて、研修の機会が欲しい

### 【学習支援教室】

- ・オンラインで学習を始める時に、各家庭のオンライン状況をどのように調べたかを知りたい。オンライン状況を往復はがきで聞いたが、戻りが少ない
- ・ボランティア教室がつながり合い、情報を共有し合うことや学校との連携の必要性を感じている
- ・全校配置になった、教育事務所のソーシャルワーカーと各学校の国際教室の担当者にボランティア教室の紹介をもらえると、困っている子どもとその家庭のサポートができると思う